
異世界

あっちゃん(^ー^)

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界

【Nコード】

N6337H

【作者名】

あつちゃん（ハ－ハ）

【あらすじ】

こんにちは今回私が作った小説はまた入れ替わり系です。内容は入れ替わったのに第三者には見えてないということです。暖かく見てください。お願いします。

第1話 気がつかない

ある朝目が覚めた。俺は眠い目を擦りながら顔を洗いに行く。俺は顔を洗い、洗面所にある鏡を覗いた。

「何だーコレはー」

そこには中学時代、同じクラスだった水野明希奈（みずのあきな）になっていた。あきな）になっていた。

「どうしたー」

「え！？なんでもないよ」

「顔を隠すなよ！」

「やめろよ！親父！」

「？？何を嫌がってるんだ？」

「え？親父・・・俺の顔・・・」

「何を言ってるんだ。お前は高治だよ。」

「そつだよな・・・ハハ・・・」

もしかして俺の姿見えてない！！

俺は朝ごはんを食べ家を出た。あの後、両親も気づいてなかったぞ・・・

言い忘れてたが俺は上野高治（うえの たかじ）高校一年生、一応俺は共学だが水野は女子校に行った。水野はどうなっているんだろう・・・「よお！たかじ！」

「！？」

「どうした？まるで違う人になったような反応をして」

「いや・・・お前本当に俺が見えるのか・・・」

「幽霊かよ！！見えるよ」

「だよな・・・ハハ・・・」 何でだ？声質も身体だって全然違うのに・・・

自分の席についても誰も水野だって事に気づかない休み時間、俺は男子トイレに入るか女子トイレに入るか迷っていた。

「どうした！高治」

「お！山田！」

「お前女子トイレ入ろうとしてたんじゃ・・・」

「バカ！そんな訳ねーよ」

「じゃ入ろうぜ！俺もしたかったし

「あ！」

チー

「うわ！ポタポタ垂れてきちゃう。立ちションなんかできないよ」

「おい！どうした？しないのか！？」

「・・・なあ・・・」

「あん？」

「これを見てくれ」

「何を見せてるんだ！早くしまえよ！ちんこを・・・」 え！？や

つぱりコイツには見えてないのか！？

「どうなってしまったんだ！？」

次の授業体育だ。ってえ！？どうしよう！まあ俺にしか見えてないから大丈夫か・・・

「うわ！？渡瀬！！触んなよ！！」

出た。男の体を触りまくる変態ホモ男渡瀬！今日は絶対触られたくないな

「よお！たかじ！」

うわ！来た

「よ・よお！」

「おお！お前の乳首！！なんだコレ？」 「触んなよ」

「まさか・・・女？」

「ち・違いーよ！」

「まあ・・・そうだな・・・」

感触はあるのか見えなくても

体育が始まった。

「ハア・・ハア」

「あれ？今日は息切れが早いな」

「ハア・・ハア・・しょうがないだろ！ハア」

50メートル走だった俺は平均タイムより低く尚且つ息切れが激しかった。

「いつものたかじじゃないみたい」

当たり前だ。俺は水野だ。放課後。俺は帰宅をしていた。それにしても何でみんな気づかなかったんだ？もしかして俺が変なのか？俺の人格に水野の心が入ってしまったからか・・そう考えるしかないかもな・・そうか！俺は上野高治だ。水野ではないんだきつと鏡に映ってるのも気のせいだ。

「ちよつと！」

男の人に肩を叩かれた。俺は振り向いた瞬間俺の理論をくつがえされた。そこには上野高治の姿があったからだ。

第2話 夢の中（前書き）

今回が第2回目です。今回は、相談、風呂、原因、風呂、告白などいろいろ欲張っちゃいました。

第2話 夢の中

「お前は誰だ？」

「あなたこそ！」

「もしかして水野か？」

「ええ・・・」

「俺は上野高治だ中学の時同じクラスだった」

「あーたかじ君！まあこの姿からいえばそうじゃないかとおもったよ」

「ところで今日お前みんなから何て言われた？」

「それが、みんな気づかないの！私、男子なのに女子校で勉強したのよ！」

「やつぱり！俺も女で授業をした」

「みんな私たちが入れ替わってる事に気がついてないなんて」

「ああ」

「ところで明日からはどうするの？」

「今、俺がお前の家に帰るのが妥当だが、みんなが気がついてないから、あえてこの姿のまま帰った方がいいだろ」

「分かった」

ここで俺達の事をまとめると

1 上野高治（俺）と水野明希奈は今朝起きたらお互いの心と身体が入れ替わっていた

2 しかし第三者からは水野明希奈になった俺の姿が上野高治として見えている

3 どうせ見えてないのでそのまま生活する事にした

という訳だから、これから戻る方法を考えながら生活をしよう」

「待つて！でもあなたの姿今は私なんだから・・・」 水野はバ

ッグからブラジャーとショーツを出した。「一応、私だから女子用の下着を着てよね」

「ええー」

「勘違いしないでよ！あなたは女性なの！だから、つけるのが当たり前なの！」

「・・・分かった・・・」

俺は水野から渡された下着を着けた。やはり水野なので下着は想定通りにフィットした

「身体だけじゃなくて心も女性になりそうだ」

「一応、私も着けるよ」

「お前、男がするのか」

「だって第三者からは私の姿が私として見えている訳だし」

「まあ、それもそうか」

俺は水野と別れてから自分の家に行った。

「見えてなくても緊張するな」

家に入る

「おかえり！高治！」

「お！ただいま」

「お風呂先に入っちゃって」

「お風呂！」

「そんな驚かなくても」

いやいや今俺は水野だぞまずい！まずいぞ・・・

俺はなんとなく風呂に入った。さつき着けた女性用下着を脱いで裸体になった。やっぱり女子高生だな・・・発達した体になってる。

「さっそく入るか・・・」

まずは湯船につかった。胸が水の上から浮いている奇妙な感覚だ。まあ昨日まで男だったから当然か・・・少しかった後に体を洗うことにした。まだこの身体に慣れてなく洗う度に感じてしまう部分がある。

次はシャンプーを塗ろうか 髪が長いから塗るのにかなり時間がかかる。普段はすぐ済むのに・・・

じゃあ風呂から出るとするか

身体をタオルでふく。やはり慣れてないか感じてしまう箇所もあった。

夕食の時間だ。普段は二分で片付いてしまうくらいのご飯だが10分くらいかかってしまった。

そして身体が眠くなったから寝た。

――ここは夢なのか――

「あれ？戻ってる！」

「私も」

「おー水野！」

「ここはどこ？」

「分からない・・・夢なのか？」

「こんにちは」

「誰だ！？」

少女だ

「こんにちは私はチューピーといいます。私はいわゆる天使です」
「は？」

「実はあなた達を入れ替えてしまったのは私の友達ピーエンの事故です」

「何よそれ？」

「実は一週間前にピーエンが事故により人間界に落ちてしまったのです。その時に使った魔法であなた達を入れ替えてしまったのです。ピーエンは記憶を洗脳する魔法も使えるので、恐らくそれで他の方には見えてないと思うんですよ。」

「何の意図で俺らに？」

「すいません。ピーエンはピンチになるとパニックになってしまう

んです」

「じゃあピーエンを捜せばいいのか・・・」

「はい！しかしピーエンは人間の姿になっていて更に記憶を洗脳しているのでみんな気付くのが難しいです。多分ピーエンは記憶を失っていますので本人も分からないかと・・・更に魔法が今は大丈夫ですがだんだん悪魔法に移り変わっていくかもしれません。」

「え！？」

「お願いします！親友を救って下さい」

「でも、見つけるのが難しいんじゃない？」

「でもピーエンを救えば私達も戻る。やろつよ！上野君！」

「まあ・・・やってみるか」

「ありがとうございます！では！また！」

「は！」

何だっただんだ！今のは？夢か・・・だいたい天使なんて

俺は、まだ水野だった。仕方なくまた俺は水野の姿で登校した。
下駄箱に手紙が入っていた。

上野君へ大事な話があります。

今日の放課後、屋上に来てください

丹崎 遥

これってラブレター！よっしゃ！丹崎ってめっちゃ美人じゃん！水

野もかわいいが丹崎の方がかわいいよ！俺は丹崎の事しか頭になかった。

そして待ちに待った放課後。俺は急いで屋上に向かった。もう丹崎はいた。

「こんにちは」

「お！おう丹崎」

「いきなりだけど、あなたの事が・・・」

告白かよ！

「女にしか見えません」

「え！？」

コイツ何で俺が女の身体である事が見えてるんだ？

第2話 夢の中（後書き）

もし良かったら感想などを聞かせて下さい

第3話 丹崎 遥（前書き）

こんにちは。前回が長かった分今回は少し短いです。内容はまあ丹崎さんとの会話が重視です

第3話 丹崎 遥

「何かずっと気になってたの。何でもみんな女の子になっている事に気がついてないのかな？って」

「・・・」

「でさーあなたは男なの？女なの？どっちよ！？」

「えーと・・・今は女だけど・・・何かみんなには男にしか見えてなくて・・・」

「ふーん」

「何かみんな脳が洗脳されてるらしいんだよね（夢の中での話だけど）」

「ほほー」

「でもお前洗脳されなかつたんだ！バカだから？」

「な！？うるさい！」「まあこの事はあまり言わないで面倒だから・・・」

「ねえ、あなたの身体の名前は何て言うの？」

「水野明希奈。女子校に通ってる」

「明希奈か・・・じゃあ君とプライベートで会うときは明希奈ちゃんって言うよ！」

「やめろよ！」

「だって、その身体で高治君はおかしいでしょ？」

「まあ・・・」

「じゃあ決まりね！明希奈ちゃん！」

「・・・ああ」

屋上から丹崎は去っていった。でも残念だったな・・・俺は告白されるかと思っていた。だが何であいつは俺の事を分かつたんだ？あいつは俺達の入替わりに関係あるのか？一体あいつは何者なんだ・・・

ピロピロ
♪

「メールか・・・」

『ちよつと話があるの！昨日会った場所に来て！』

水野からのメールだった俺は昨日水野と会った場所に行った「
よお！」

「あ！上野君！昨日何か変な夢みたの！？」

「夢？」

「何かチューピーとか言う女の子が親友を助けてくれって、親友を
助けてたら戻るとか」

「あゝそんな感じの俺も見たいやゝな気がする」

「あ！そうなの！」

「ということは、あの話本当だったんだ。って事は丹崎はやはり何
か因果関係があるのかもな・・・」

「丹崎？」

「丹崎遥。俺のクラスにいる女子。何かそいつには俺の姿が水野に
見えるんだって」

「えー！何その子！」

「やっぱり何か関係があるんだよな！」

「多分、そうかも。今度会ってみたいな」

「ああ」

あれから一週間が経った

その日の放課後、俺は渡瀬達に絡まれてた。

「何かお前最近丹崎とよく喋ってるけど付き合ってるのか？」

「バ！バカヤローそんなじゃねーよ」

そうだ丹崎は俺にとってこの入れ替わりを解く鍵なんだ。何と
しても・・・

「じゃーねー明希奈ちゃん！」

「おい！明希奈って誰だよ！お前女なのか！？」

「ち・ちげーよ」

あいつプライベートでしか言わないって言ったのに

「高治、お前俺よりも先にガールフレンド作りやがって！」

渡瀬に胸を触られた

「やん！」

「お・・・い・・・ブラついてるぞ・・・コイツ・・・それになんださっきのリアクション・・・！！うわー！！」

ヤベ！俺は急いで逃げた

「はあはあ」

ふざけんなよ！こっちはただでさえ水野なのに・・・

「あなたって水野明希奈なの！」

「え！？」

コイツは地味だけどかわいい藤咲千香じゃん

「昨日の会話聞いちゃったの！あなたは誰？」

「何、言ってるんだよ！俺は上野高治！水野明希奈ではないよ。残念だけど」

「ふーん」

藤咲は俺の髪の毛の肩の方を引っ張ってきた。

「いたたた・・・」

「やつぱり・・・私には見えないけど、そのリアクションは何かがあるって事、そうでしょ！？」

「・・・お前は鋭いな・そうだよ！俺は水野明希奈。見えるのは俺と丹崎だけだ」

「そうなんだ・・・私明希奈ちゃんと友達だったんだ」

「へえ」

「分かった！じゃあね！」

「あ・ああ」

でも何でそんな事を知りたかったんだ？あいつは・・・

「あわわ・・・どうしよう！一週間が経っちゃった！悪魔法が発動しちゃう！多分、明日には・・・」

第3話 丹崎 遥（後書き）

次回は悪魔法編なので多分長いです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6337h/>

異世界

2010年10月11日08時19分発行